AGU 青山学院大学 NEWS No.32

AGUニューズ第32号
[2006年6月～7月号]
青山学院大学・広報入試センター広報課
〒150-8366　東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-8111（代表）
URL. http://www.aoyama.ac.jp/agunews/

相模原キャンパス

特集 AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY

青学が誇る専門職大学院の“現在”

国際マネジメント研究科長　伊藤文雄教授
法務研究科長　神長勲教授
会計プロフェッション研究科長　鈴木豊教授

AGU TOPIC
今春、「国際コミュニケーション学科」スタート！

TOPICS
2006年度入学試験結果
21世紀COEプログラム第5回国際シンポジウム
第2回eLPCOオープンフォーラム開催

報告・お知らせ
2006年度新任専任教員紹介
2005年度学生表彰

誌上公開講座
進化する
「青山スタンダード」

INFORMATION
2006年度進学相談会開催日程
2006年度オープンキャンパス

特集

青学が誇る専門職大学院の“現在”

国際マネジメント研究科長
伊藤 文雄 教授

専門職大学院・国際マネジメント研究科

2006年度、専門職大学院として4年目を迎えた国際マネジメント研究科の、現在の取り組みについてお聞かせください。

伊藤　現在、わが国の法律に定められた専門職大学院の認証評価の取得に向けて、いっそうの教育の充実に全力で取り組んでいます。私たちは本研究科のカリキュラムを自信を持って学生に提供していますが、世の中にパーフェクトはありません。つねに“健康診断”を行い、欠点があれば改めていく必要があります。本研究科は、2002年に、世界的なビジネススクール認証評価機関である「AACSBインターナショナル」の正式メンバーとして、世界基準に基づいたカリキュラムによる教育を行ってきました。そうしたグローバルスタンダードの教育を推進していく過程で痛感させられたのが、アジア太平洋地域には独自の認証機関が必要だということでした。そして昨年、本研究科が核となって発足させたのが「ABEST21」です。これは、平成17年度「大学教育の国際化推進プログラム（戦略的国際連携支援）」に申請していたプロジェクトで、ビジネススクール教育の質保証システムの開発を主な目的とした事業です。

国際連携機構「ABEST21」には、どのような教育機関が参加しているのですか?

伊藤　現在、本学のほか、米国・カーネギーメロン大学、カリフォルニア大学サンディエゴ校、ロシア・モスクワ大学、中国・復旦大学、韓国・ソウル大学のほか、日本、オーストラリア、マレーシアなどアジア太平洋地域の約20大学が参加しており、現在NPO法人格の申請中です。本研究科では、これまで個々に海外の大学とパートナーシップを結んできましたが、「ABEST21」設立によって、より広範な国際連携ネットワークの中で教育研究を展開できるようになりました。

この「ABEST21」による人材の育成に不可欠な教材の開発は、平成17年度「法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム」に選定された「アジアMBA育成のマネジメント・ゲーム」で取り組んでおり、すでに実践的なマネジメント・ゲームソフト「MBABEST21」を開発しています。設立当初から国内のみならず国際的にも認知されるビジネススクールを目指してきた本研究科は、そのほかにも科学研究費補助金、オープン・リサーチ・センター整備事業等により、多くの国際連携プロジェクトを推進し、国際連携の強化を図ってきました。これらの取り組みは、ビジネススクールにおける世界基準の人材教育に不可欠の教材開発や、教育の質保証システムを国際的な連携協力により開発しようとするものであり、わが国のビジネススクール教育の国際水準を向上させる役割を果たすものであると自負しています。

2006年度より、「国際マネジメントサイエンス専攻」がスタートしました。

伊藤　ビジネス経験者と学部卒業生では、勉学に対する目的意識やモチベーションが異なります。そこで、MBAプログラム（Full-time/Flex-time）では職業経験者のみの募集を行い、博士課程を改組した国際マネジメントサイエンス専攻で、学部卒業生を受け入れることになりました。博士課程を5年一貫制で学べるこの専攻では、本研究科ならではの理論と実践がスパイラル状に組み合わされた独自のカリキュラムによって、主として若手研究者や将来のビジネススクール教員などの育成を目的としたものです。

これに伴い、MBAプログラムのカリキュラムもさらに洗練させました。“明日のトップマネジメント育成”という明確な目標のもと、マネジメント、ファイナンス、マーケティング、アカウンティング、オペレーション&情報システムの5つの専門領域を設定し、基礎科目から各専門領域の多彩な専門科目、マネジメント・ゲームや仮想金融市場での投資ゲーム「FAST」などのグローバル・アクション・ラーニングまで、段階的に理解を深め、着実に能力開発を図る「コースワーク」のカリキュラムです。「コースワーク」で学ぶ上で重要なのは、一つひとつの授業の高い「質」を保証することであると私は考えています。一つでもレベルに達していない授業があると、せっかくの「コースワーク」の教育効果が台無しになってしまいます。そのため本研究科の教員はつねに高い意識を持って授業に臨んでおり、また授業評価などを通して、学生と教員の間に相互信頼と緊張感が築かれています。

そうしますと学生にも高いモチベーションと目的意識が求められているわけですね?

伊藤　もちろんです。ただ、現実のビジネスを学ぶMBAプログラムで求められるモチベーションや目的意識は、成績評価や資格取得を目的とした勉学に求められるものとは少々異なり、そうしたことは入試段階でも考慮しています。本学のMBAプログラムの入試は書類審査と面接のみで、筆記試験は行いません。トップマネジメントを志す人には、人を束ねる力、リーダーシップ、社交性など人間としての高いポテンシャルが求められますが、そうした能力はペーパーテストで判定できるものではないからです。筆記試験の点数ではなく、その人が何をやってきたのか、どういう人間なのかを、書類と面接でじっくり見極めさせてもらいます。

国際マネジメント研究科では、一般向けの定期刊行機関誌『青山マネジメントレビュー（Aoyama Management Review）』も発行してきました。その目的は?

伊藤　創刊は2002年4月で、今年4月ですでに9号を発行しました。一般書店でも入手できます。広くビジネス界で活躍する人々にも読んでいただける論文誌で、毎号、今日的なテーマを特集として取り上げ、各界を代表する経営者、ビジネスパーソンや、学内外の研究者の方々に執筆していただいています。最新号では「ブランド・マネジメント」を特集しており、こうしたビジネスの重要トピックを本学ならではの切り口で情報発信していくことによって、産業社会の発展に貢献していくことを目指しています。

国際マネジメント研究科は、本学では最も早い段階にスタートした専門職大学院ですが、今もなお、新しいことに挑戦し続けているイメージがあります。

伊藤　1990年4月にわが国の私学で初の夜間大学院を設立して以来、専門大学院から専門職大学院へと、私たちは私学におけるビジネススクール教育の牽引役となってきたというプライドを抱いています。日々高度化・複雑化する国際競争社会を強く意識した「産業社会の人材育成」はそんな私たちの使命であり、これからもその目的のためにフロンティア精神を抱いて、あらゆる可能性に挑戦し続けていきたいと考えています。青山学院大学の国際マネジメント研究科が「やるべきこと」は、まだまだたくさんあるのです。

専門職大学院として4年目を迎える国際マネジメント研究科、3年目の法務研究科（法科大学院）、
そして2年目の会計プロフェッション研究科――。
都心のキャンパスに位置し、それぞれ青学ならではの教育を展開する3研究科の現在、そして明日を、それぞれの研究科長にうかがいました。

法務研究科長
神長 勲 教授

法科大学院・法務研究科

2006年3月に本学から初めての、法務研究科修了生を出しました。研究科長としての“思い”をお聞かせください。

神長　2年短縮コース（法学既習者）の14名全員に修了認定を出すことができ、心から喜んでいます。われわれ教員は力の限り、学生の勉学をサポートしてきましたが、この結果は彼ら一人ひとりの強い意欲と、非常に良いチームワークで努力してきた賜物でしょう。新司法試験の場ではライバルとなる者同士が、お互いの利害と関係なく議論しあい、交流することによって、全員が確実に力をつけてきたと感じました。私は、そんな彼らが将来、社会に貢献できる素晴らしい法曹となることを確信しています。もちろん、3年標準（法学未修者）コースの1期生たちにも、職業経験者を含む多彩な人材がそろっています。彼らが残りの日々でどれだけ頑張って力を付けてくれるか、とても楽しみです。

新しい法曹養成機関としてスタートしたばかりのロースクールは、教育方法やカリキュラムの編成など、さまざまな試行錯誤があったと思います。

神長　本学に限らず、日本のロースクールの教育は、ここまで手探りの状態だったと思います。そんな状況の中で研究者教員、実務家教員、そして学生たちが、それぞれの立場で発言し、協力しあいながら、青学ロースクールの教育スタイルを作り上げてきた2年間でした。新司法試験合格を目指す学生はみな真剣そのものですが、それでもどこかアットホームな雰囲気があったことも、青学ロースクールならではのスクールカラーではないでしょうか。実際に「青学のロースクールで学ぶことができて、ほんとうに良かった」と言ってくれる学生がたくさんいます。私たち教員は、そんな彼らの熱意と愛校心に応えるため、新司法試験合格までのバックアップとして研修生制度を設けました。この制度は、1年間を限度として、修了後も本学ローライブラリーを初めとした施設を利用できるというものです。修了者のためのスペースも設ける予定です。

新司法試験合格という目標とともに、本学のロースクールでは「法曹倫理」を中核科目として、「地の塩、世の光」を実践できる法曹養成を目指しています。

神長　ええ、倫理を重視するキリスト教メソジスト派の学校としての社会的使命です。

実務家教員による「法曹倫理」は学生にもたいへん好評な授業です。「現代法実務（国選弁護）」でも、法曹に求められる倫理観を強く意識した授業を展開できたと思っています。今後は、教員同士あるいは教員と院生の間で、法曹倫理を軸にした法曹像をどのように描いていくかについて、体系的に議論できる機会を設けるつもりです。また、本学のクリスチャンの教員に、倫理教育への協力を仰ぎたいとも考えています。

「法曹倫理」以外のカリキュラム面での特色は、学生に十分浸透しましたか？

神長　これからの法曹は、立法技術も含めた「立法学」に強くなければならない……そんな思いを込めた、他の法科大学院にはほとんど見られない「立法学」は、学生からも高い評価を得ており、今後、さらに拡充していく予定です。そのほか、「環境法」「ジェンダーと法」「知的財産法」「IT企業法務」など現代的なテーマの講義も好評でした。その反面、本学が特色として掲げている国際性に富んだ科目については、残念ながらあまり受講者を集めることができませんでした。おそらく新司法試験合格枠の厳しさの反映だと思われます。しかし、青学の国際色に魅力を感じて入学してくる人がいる以上、制度的な整備を進め、その期待に応えていく必要があります。また、アメリカ法担当専任教員の採用や、ワシントン大学（セントルイス）への院生・教員の派遣に関わる協定強化、オーストラリア国立大学との共同授業の強化などを含め、さらにグローバルな法曹として活躍することをめざす学生にとって、さらに魅力的な教育メニューを提供していかなければならないと考えています。そのほか、カリキュラムの改善点としては、民事法分野で行われている総合演習の研究者と実務家による共同担当方式を、公法、刑事法の総合演習でも行えるようにすること、そして模擬裁判、エクスターンシップといった臨床教育のいっそうの強化・充実を図ることに取り組んでいくつもりです。

施設面では、専任のローライブラリアン2名が常駐するローライブラリーや個人用キャレルを設置した自習室などが学生たちに好評でした。ローライブラリーでは、学生を経済的に支援する意味もこめて、夜間アルバイト制を実施しています。

今年、新司法試験がスタートしますが、学生や修了者の合格バックアップのための制度は用意されているのですか。

神長　前述の「研修生制度」もその一つですが、3号館3階の新司法試験ルームでは2005年度後期より、本学出身の法曹で構成された青山法曹会の若手弁護士による相談会が週1回行われています。これはいわゆる答案指導ではなく、進路や勉学について、学生が気軽に“先輩”と相談できる貴重なチャンスです。なお、新司法試験ルームは将来、新司法試験関係資料センターとしての機能を持たせるとともに、ゆくゆくは法律事務所の開設も構想しています。司法試験勉強の特性をよく理解したカウンセラーをおき、院生の需要に応えることも必要でしょう。また、法曹として社会で活躍するようになった修了者には、ぜひ母校に戻って、後輩へのアドバイスやわれわれ教員に対して教育のあり方に対する問題提起をしてほしいと思っています。

3年目を迎え、さらなる青学ロースクールの発展に向けた抱負をお聞かせください。

神長　ロースクールでは、開設当初よりFD（ファカルティーディベロップメント）委員会を設置し、ロースクール教育全般にわたる自己点検・外部評価を行ってきました。3年目を迎え、これまでの蓄積と学生の意見をベースに、カリキュラム、施設面ともにさらに学びやすい教育環境の整備に努めていきます。同時に実務家・研究者ともに充実した教員スタッフをそろえていますが、学生の人数も増えましたので、優秀な教員の増強も検討しています。認証機関による認証評価も意識して、私たちの挑戦と試行錯誤は、これからも続きます。

会計プロフェッション研究科長
鈴木 豊 教授

会計専門職大学院・会計プロフェッション研究科

開設から1年を振り返ってみていかがですか?

鈴木　まず感じるのは、想像していた以上にニーズが多様化していることです。第一期生は82名で、うち約3割が社会人でした。そのためか、院生の学ぶ目的が多岐にわたっている印象を受けました。当然、個々の学びの深度も異なっています。その結果、画一的な指導を行うことは難しく、一人ひとりを対象とした細かな対応が不可欠になってくるわけです。その点、本研究科は、16名の専任教員を揃え、単純計算しても平均5名の院生に1人の教員がつくことになり、特に演習ではきめ細かな指導を行うことができたと思います。専門職大学院では、教える側が一方的に話すだけの“一方通行”の講義はあり得ません。院生一人ひとりの性格、目標、理解度などを教える側がすべて把握し、“双方向”での講義を展開していく必要があるのです。

初年度ということもあり、先生方にもご苦労が多かったと思いますが?

鈴木　16名の教員のうち10名が公認会計士や税理士などの実務資格保有者を揃えました。しかし実務教員のなかには、今回初めて教壇に立ち学生に教えるという方もおられました。慣れない経験であるにもかかわらず、そんな教員も講義に対し積極的にぶつかっていく姿勢が見られ学生からも好評でした。本研究科では、半期ごとに各授業についてのアンケートを院生に実施しましたが、約70%以上の院生が授業に満足しているとの結果が出ました。初年度にこれだけの評価をもらい、今後に向けて大きな自信となっています。

資格取得のための会計専門職大学院との捉えられ方をすることもありましたが?

鈴木　もちろん公認会計士をはじめとする資格取得をめざす人を積極的に支える体制は整えており、新しい公認会計士試験制度への対応も十分に考慮しています。しかしながら、本研究科は単に資格を取らせることだけを目的としているわけではありません。限りなく視野を広げ、あらゆる可能性を追求していくつもりです。企業経営や会計監査といった分野が変動期にある現代は、世界的にもより幅広い知識と技術を備えた会計のプロが求められています。もちろん日本でもその動きは顕著で、近年、不透明な会計処理で世間を騒がせている企業にしても、会計担当者の未熟さの表れともいえます。公認会計士でなくとも、各企業で活躍できる多くの“会計のプロ”が、今後必要とされるのは間違いありません。

会計プロフェッション研究科では、自己推薦入学試験を採用されていますね。

鈴木　ええ、この入試制度は、青山学院の建学の精神、および「健全な会計マインドを備えた会計プロフェッション」を養成するという本研究科の教育理念を十分に理解し、自分の目標に向かって邁進しようという強い意志を抱いた受験生に、ひとりでも多く入学していただくためです。もちろん経営学や商学以外の分野からの挑戦も大歓迎です。むしろ異分野から会計プロフェッションを目指そうと考えている方のほうが、明確で高い目標意識を持っている場合もありますね。

いよいよ2年目がスタートしたわけですが?

鈴木　第2期生となる今年度は、107名の学生が本研究科に集いました。昨年を越える約4割の社会人の方を含んでいます。初年度同様に145もの多彩な科目を用意し、それぞれの目標に応じたカリキュラムを構築しています。公認会計士の資格取得を目指す人には「特別演習講座」を設置し、さらなるバックアップを行っていますが、初年度は2年次から受講できたこの講座を、今年度からは1年次からでも受講できるように改定しました。また、本研究科では“実務”にも力を入れており、青山学院大学の卒業生で組織される「青学会計人クラブ」の協力のもとで、実際に会計の最前線の現場を体験できる機会を設けています。より実践的な教育として「エクスターンシップ」を2年次に用意していますが、第1期生からこちらの制度にも30名の申込みがありました。利用できる講座や制度は大いに活用していただきたいですね。

全国に先駆けて会計専門職大学院設置に着手した青山学院の会計プロフェッション研究科は、日本はもとより世界的にも注目を集めています。

鈴木　通常、大学は、第三者機関による認証評価が7年に1度必要ですが、専門職大学院の場合は5年に1度必要とされています。それだけ各方面からの注目度も高くなると言えます。今年の3月に『会計大学院第三者評価セミナー』を実施した際に、アメリカから視察に訪れた評価機関の方々が、「これだけ充実した素晴らしい会計大学院はアメリカでも見たことがない」と驚いておられました。アメリカでもMBAのプログラムにアカウンティングスクールが設置されているスタイルが主流ですから、アカウンティングスクールとして独立している組織体制には感銘を受けたようです。確かに海外、とくにアメリカなどの会計の地位や倫理観には日本が見習うべき点が多くあるのは事実です。しかし、だからといって欧米の会計の体制が何でもいいというわけではありません。国によって会計を取り巻く環境も異なりますし、その国ならではの会計の文化を築いていけばいいと思います。

今後の取り組みについて　お聞かせください。

鈴木　文部科学省の平成17年度「法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム」に、本研究科を含む会計専門職大学院が共同プロジェクトを組んだ「会計大学院教育課程の国際水準への向上」が選定されました。これは会計大学院を設置する大学間で相互の協力を推進し、会計大学院の教育水準を向上させるとともに、優れた会計職業人を養成し、社会に貢献することを目的としたものです。このように今後は、他校との連携も視野に入れた活動、または活動内容の外部への発信などにもつとめていきたいと考えています。そういった動きとしては、今年夏前には例年恒例となりつつあります第4回「会計サミット」の開催も計画中です。できる限り旬な情報を提供できるよう準備を進めている段階です。また、建学の精神など不変の真理は守りながらも、時代の流れに応じた体制の変更には積極的に対応していくつもりです。対外的な活動と柔軟な変革との相乗効果により、一企業だけでなく、日本全体をリードしていただけるような人材が、この会計プロフェッション研究科から多く生まれることを祈念しています。

今春、「国際コミュニケーション学科」スタート!

国際コミュニケーション学科主任
田辺 正美 教授

2006年4月、国際政治経済学部に新設された国際コミュニケーション学科が、初めての新入生を迎えました。そこで学科主任を務める田辺正美教授(認知言語学)に、新入生の印象や新学科の教育に対する抱負などをうかがいました。

入学式直前の4月1日・2日、国際政治経済学部のフレッシュマン・オリエンテーション・キャンプが、河口湖畔で行われました。そこで出会った学科第1期生の印象はいかがでしたか?

田辺　非常に優秀な学生が集まってきたという、うれしい手応えを感じています。フレッシュマン・オリエンテーション・キャンプでは、新入生たちがグループに分かれてディベートを行い、その結果報告はすべて英語で発表しました。予想を上回る出来映えで、語学力もかなりのレベルに達している学生もいました。今後2年間で、彼らがどのように成長して、青山キャンパスにやって来るか、今からとても楽しみです。

国際コミュニケーション学科第1期生たちは、どのような新学科での学びを体験するのでしょう?

田辺　1年次は外国語科目中心の履修になりますが、学科の必修科目として「国際コミュニケーション総論」と「入門セミナー」を履修します。このうち「国際コミュニケーション総論」は、ネイティブスピーカー(アメリカ人)が英語で講義するというもので、国際コミュニケーションにおける必須のツールである「英語」の重要性をアピールするため、あえて1年次から開講することにしました。新入生にとって、チャレンジングな授業となるでしょう。なお、外国語は英語だけでなく、フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を選択することができ、通訳、翻訳、ビジネスコミュニケーションなど、社会で役立たせることができるスキル系科目も充実しています。

一方、本学科の専任教員が担当する「入門セミナー」は、問題発見から解決、さらにプレゼンテーションによる説得に至るまで、発信型学習を実践する本学科の学びに欠かせない能動的な学習姿勢を身につけてもらうことを目的としています。これまで「知識を蓄える」受信型の学習を行ってきた学生にとって、これもまたハードな体験となるかもしれません。私たち教員はこうした厳しい授業を通して、新入生に「高校4年生」ではなく、大学生としての自覚を持ってもらいたいと願っています。そして本学科では4年間を通して少人数教育の中で、素晴らしいポテンシャルを秘めた学生たちの才能を存分に開花させていくためにも、一貫して学ぶことに対する「厳しさ」を学生に求めていくつもりです。

社会科学系学部で学ぶ「コミュニケーション学」というのは、わが国ではユニークな存在ですね。

田辺　確かに日本では、「コミュニケーション学」と言うと、対人コミュニケーションを中心に考えられがちですが、欧米の大学における「コミュニケーション学」は、政治・経済、国際関係との関わりで社会科学に分類されることもあります。私の専門領域である言語学などは、自然科学分野とも深い関わりがあり、「コミュニケーション」というものは本来、人文科学、社会科学、自然科学にまたがる学際的なテーマなのです。「コミュニケーション理論」「コミュニケーションスキルと言語」「比較文化」の3領域を柱に、対人・組織間・国家間すべてのコミュニケーションを網羅した本学科のカリキュラムは、国内他大学に類を見ない体系的で、中身の濃いものであると自負しています。ただし今後、学生たちが何を求めて本学科に入学してきたかといったことに耳を傾けながら、彼らのニーズを反映した、より良いカリキュラムに成長させていく努力を怠らないつもりです。学生にだけ厳しさを求めるのではなく、私たち教員も新学科を立ち上げる重責を自覚しながら、自らに厳しく教育に取り組んでいきたいと考えています。

2007年度より 文学部心理学科が変わります

心理学科ではかなり多くの卒業生が、臨床心理士となるために大学院(本学大学院および他の国公私立の大学院)へ進学しています。そこで学部においても臨床心理学の基礎課程をより充実したものにするため、2007年度から大幅にカリキュラムを改革し、多くの臨床心理学関連科目を増設する準備を進めています。また、医療の現場において、心理学に関する専門的知識と技術を持って、疾病者やその関係者に対して、その心理に関する相談に応じ、助言、指導などの援助を行えるものが必要とされています。本学科では、このような医療の現場で活躍できる人材を育てるためにも、多くの科目を用意したいと考えています。

たとえば新設科目として、「精神分析学」「犯罪心理学」「音楽療法」「心理面接法」「生涯発達心理学」「感情心理学」「健康心理学」「神経心理学」「家族心理学」「身体医学」「心身医学」「精神衛生」「脳生理学」「母子保健」「成人・高齢者保険」「精神保健福祉」「コミュニティ心理学」「音楽心理学」「広告心理学」などが予定されています。

この大幅な科目編成の拡充に伴い、これまでの昼間主コース・夜間主コースの2コース制を1本化します。

本学科では2006年度までも社会人入試を実施してきましたが、夜間主コースという時間的に極めて限られた中でのことでした。そのため必修科目の授業時間は6〜7時限という夜間に制限され、社会人とはいえ、実質的には「有職者」の履修条件が優先的に考慮されてきました。その一方で、5時限目には心理学の学習上重要な科目が配置されて有職の社会人学生には履修しにくいものになっていました。

しかし、今後はコース制の1本化により、コースの別なく、幅広く展開された科目群の中から学生の皆さんの目的意識や興味、必要に応じた科目履修ができるようになります。

2007年度からは社会人に生涯学習のためのリカレント教育の場を提供し、学科における異年齢教育を実現するため、社会人入試制度(履修条件)も一新し、全入学生の履修条件をまったく同一のものにする予定です。

※現在の昼間主コース・夜間主コース在学生の2コース制はそのまま維持されます。

2006年度一般入学試験 大学入試センター試験利用入学試験結果

2006年度一般入学試験と大学入試センター試験利用入学試験の志願者総数は、47,829名となり、昨年度の志願者総数と比べ、約6,700名の志願者増となりました。なかでも、経営学部では、志願者総数が1991年度以来15年ぶりに10,000名を越え、国際政治経済学部では、1982年度の学部創設以来、最高の志願者数となりました。

《一般入学試験》

2006年度一般入学試験における志願者数は、昼間部が34,264名（対前年度331名減）、第二部（夜間部）が2,424名（対前年度47名減）、合計36,688名（対前年度378名減）となり、ほぼ前年並みの結果となりました。経営学部でC方式（2教科型）を新規に実施した他、国際コミュニケーション学科の開設で志願者数を増やした一方、文学部・理工学部はそれぞれ志願者数を減らす結果となりました。

《大学入試センター試験利用入学試験》

大学入試センター試験利用入学試験では、経済学部と経営学部で新規に実施したことや、国際政治経済学部において新たに3教科型を導入したことなどから、大学全体の志願者数が11,141名（対前年度7,104名増）となりました。なお、国際政治経済学部では、大学入試センター試験利用入学試験の志願者数が一般入学試験の志願者数を上回る結果となりました。

◆◆◆

2007年度一般入学試験では、文学部心理学科（昼間主・夜間主）のコース制を廃止し募集を行います。また、大学入試センター試験利用入学試験においては、経営学部で4教科型、国際政治経済学部国際経済学科で2教科型、国際コミュニケーション学科で3教科型を新規に導入いたします。これらの情報を含めた2006年度入学試験結果と2007年度入学試験の詳細を掲載した「入学試験データ&ガイド2007」は、6月1日から配付を開始します。郵送をご希望の方は本学ウェブサイト「入試・入学案内」（http://www.aoyama.ac.jp/admission/college/index.html）にてお申し込みください。

広報入試センター『進学情報コーナー』に行ってみよう!

青山キャンパスの総合研究所ビル1階　広報入試センター内に、大学への進学に関するさまざまな情報を受験生のみなさんに提供する『進学情報コーナー』が設けられています。進学に関する質問はもちろんのこと、青山学院大学のさまざまな資料を閲覧したり、大学紹介ビデオなどを鑑賞することができますのでお気軽にご利用ください。開室時間は、平日9時～17時、土曜日9時～13時です（夏期休業期間等は開室日・時間が変更になることがあります）。グループ、学校単位での利用希望の場合は、予め広報入試センター広報課へお問い合わせください。

お問い合わせ先　TEL.03-3409-8626

2006年度入学試験結果

一般入学試験

学部・学科・コース・方式		募集人員	志願者	合格者	倍率
文学部	教育A	約75	1,644	205	7.6
	教育B	約10	384	25	14.8
	教育　合計	約85	2,028	230	8.4
	英米文A	約190	1,651	460	3.4
	英米文B	約50	905	95	8.8
	英米文　合計	約240	2,556	555	4.3
	フランス文A	約75	617	265	2.2
	フランス文B	約10	71	21	3.0
	フランス文　合計	約85	688	286	2.2
	日本文A	約85	956	249	3.6
	日本文B	約10	184	24	7.2
	日本文　合計	約95	1,140	273	3.9
	史	約80	943	277	3.2
	心理（昼間主）	約55	743	182	3.9
	心理（夜間主）	約25	252	63	3.7
	心理　合計	約80	995	245	3.8
	合計	約665	8,350	1,866	4.2
経済学部	経済A	約260	5,732	730	6.9
	経済B	約80	1,445	222	5.7
	経済C	約20	184	29	5.2
	合計	約360	7,361	981	6.6
法学部法学科		約320	3,530	※862	3.7
経営学部	経営A	約240	5,621	※931	5.7
	経営B	約30	391	75	4.9
	経営C	約50	1,391	130	9.9
	合計	約320	7,403	1,136	6.2
国際政治経済学部	国際政治A	約50	1,132	※190	5.0
	国際政治B	約5	76	14	4.9
	国際政治　合計	約55	1,208	204	5.0
	国際経済A	約35	942	※127	6.7
	国際経済B	約5	110	10	9.4
	国際経済　合計	約40	1,052	137	6.9
	国際コミュニケーションA	約25	760	※107	6.2
	国際コミュニケーションB	約15	405	27	13.2
	国際コミュニケーション　合計	約40	1,165	134	7.6
	合計	約135	3,425	475	6.3
理工学部	物理・数理	約60	658	256	2.5
	化学・生命科	約60	858	※300	2.6
	電気電子工	約60	736	※239	2.9
	機械創造工	約50	647	※209	3.0
	経営システム工	約50	656	168	3.8
	情報テクノロジー	約40	640	189	3.2
	合計	約320	4,195	1,361	2.9
昼間部総計		**約2,120**	**34,264**	**6,681**	**4.7**
文学部第二部	教育	約50	438	106	3.5
	英米文A	約40	171	79	1.9
	英米文B	約20	82	38	1.9
	英米文　合計	約60	253	117	1.9
	合計	約110	691	223	2.6
経済学部第二部経済		約170	1,058	325	2.7
経営学部第二部経営		約120	675	※220	2.6
第二部（夜間部）総計		**約400**	**2,424**	**768**	**2.7**
昼間部・第二部総合計		**約2,520**	**36,688**	**7,449**	**4.5**

倍率=受験者／合格者　合格者に※印がある場合、補欠を含みます。

大学入試センター試験利用入学試験

学部・学科			募集人員	志願者	合格者	倍率
経済学部経済学科			20	693	99	7.0
法学部法学科			30	875	168	5.2
経営学部経営学科			30	2,804	187	15.0
国際政治経済学部	国際政治	4教科型	5	218	71	3.1
		3教科型	17	2,066	143	14.4
		合計	22	2,284	214	10.7
	国際経済	4教科型	28	916	266	3.4
		3教科型	10	1,841	100	18.4
		合計	38	2,757	366	7.5
	合計		60	5,041	580	8.7
理工学部	物理・数理学科		5	290	145	2.0
	化学・生命科学科		5	401	67	6.0
	電気電子工学科		5	177	40	4.4
	機械創造工学科		5	336	50	6.7
	経営システム工学科		5	231	50	4.6
	情報テクノロジー学科		10	293	61	4.8
	合計		35	1,728	413	4.2
総合計			**175**	**11,141**	**1,447**	**7.7**

倍率=志願者／合格者

出身高校別昼間部合格者数ランキング BEST 100

順位	(昨年度順位)	高校名 (◎は私立高等学校)	合格者数
1	(1)	◎桐蔭学園 (神奈川)	119
2	(4)	◎山手学院 (神奈川)	64
3	(2)	◎桐光学園 (神奈川)	55
4	(6)	希望ケ丘 (神奈川)	48
5	(3)	湘南 (神奈川)	43
6	(12)	光陵 (神奈川)	40
7	(18)	◎頌栄女子学院 (東京)	39
7	(21)	横浜緑ケ丘 (神奈川)	39
9	(45)	青山 (東京)	38
10	(50)	町田 (東京)	37
10	(18)	◎國學院大學久我山 (東京)	37
10	(15)	横須賀 (県立) (神奈川)	37
13	(41)	◎鎌倉女学院 (神奈川)	35
14	(10)	◎西武学園文理 (埼玉)	34
14	(25)	川和 (神奈川)	34
14	(6)	柏陽 (神奈川)	34
17	(54)	外語短期大学付属 (神奈川)	31
17	(15)	平塚江南 (神奈川)	31
17	(5)	小田原 (神奈川)	31
17	(9)	厚木 (神奈川)	31
21	(6)	南多摩 (東京)	30
21	(—)	◎帝京大学 (東京)	30
23	(29)	◎鎌倉学園 (神奈川)	29
24	(81)	◎國學院 (東京)	28
24	(45)	相模原 (県立) (神奈川)	28
24	(23)	◎洗足学園 (神奈川)	28
24	(63)	◎神奈川大学附属 (神奈川)	28
28	(81)	栃木 (栃木)	27
29	(90)	◎栄東 (埼玉)	26
29	(25)	小山台 (東京)	26
29	(—)	◎日本大学第三 (東京)	26
29	(24)	◎逗子開成 (神奈川)	26
33	(21)	八王子東 (東京)	25
34	(90)	◎市川 (千葉)	24
34	(15)	国立 (東京)	24
34	(54)	立川 (東京)	24
34	(65)	◎東京女学館 (東京)	24
34	(—)	◎世田谷学園 (東京)	24
34	(33)	◎穎明館 (東京)	24
34	(33)	鎌倉 (神奈川)	24
41	(29)	◎専修大学松戸 (千葉)	23
41	(11)	国分寺 (東京)	23
41	(33)	日比谷 (東京)	23
41	(69)	◎富士見 (東京)	23
41	(12)	横浜翠嵐 (神奈川)	23
41	(98)	生田 (神奈川)	23
41	(—)	沼津東 (静岡)	23
48	(81)	三鷹 (東京)	22
48	(54)	武蔵 (都立) (東京)	22
48	(18)	◎桜美林 (東京)	22
48	(37)	茅ケ崎北陵 (神奈川)	22
48	(54)	相模大野 (神奈川)	22
48	(—)	◎横浜雙葉 (神奈川)	22
54	(69)	前橋 (県立) (群馬)	21
54	(73)	小石川 (東京)	21
54	(90)	◎豊島岡女子学園 (東京)	21
54	(90)	港南台 (神奈川)	21
58	(—)	浦和 (市立) (埼玉)	20
58	(45)	◎錦城 (東京)	20
58	(73)	秦野 (神奈川)	20
58	(28)	金沢 (神奈川)	20
58	(73)	◎横浜共立学園 (神奈川)	20
63	(—)	◎淑徳与野 (埼玉)	19
63	(81)	富士 (東京)	19
63	(37)	◎共立女子 (東京)	19
63	(—)	◎城北 (私立) (東京)	19
67	(—)	◎浦和明の星女子 (埼玉)	18
67	(—)	薬園台 (千葉)	18
67	(14)	◎吉祥女子 (東京)	18
67	(—)	◎大妻多摩 (東京)	18
71	(—)	宇都宮女子 (栃木)	17
71	(—)	◎開智 (埼玉)	17
71	(37)	◎川越東 (埼玉)	17
71	(45)	駒場 (東京)	17
71	(65)	◎実践女子学園 (東京)	17
71	(41)	◎田園調布学園高等部 (東京)	17
71	(81)	横浜平沼 (神奈川)	17
78	(69)	大宮 (埼玉)	16
78	(90)	木更津 (千葉)	16
78	(—)	◎成田 (千葉)	16
78	(54)	戸山 (東京)	16
78	(81)	◎東洋英和女学院高等部 (東京)	16
78	(54)	多摩 (神奈川)	16
78	(—)	◎日本大学藤沢 (神奈川)	16
78	(—)	富山中部 (富山)	16
78	(—)	上田 (長野)	16
87	(—)	◎土浦日本大学 (茨城)	15
87	(—)	◎星野 (埼玉)	15
87	(—)	◎昭和学院秀英 (千葉)	15
87	(81)	西 (東京)	15
87	(90)	国際 (東京)	15
87	(37)	◎桐朋女子 (東京)	15
87	(54)	◎攻玉社 (東京)	15
87	(—)	◎品川女子学院高等部 (東京)	15
87	(—)	大和 (神奈川)	15
87	(—)	桜丘 (神奈川)	15
87	(69)	◎フェリス女学院 (神奈川)	15
87	(54)	◎浅野 (神奈川)	15
87	(98)	◎サレジオ学院 (神奈川)	15
87	(—)	◎清泉女学院 (神奈川)	15
87	(29)	◎湘南白百合学園 (神奈川)	15
87	(—)	新潟 (新潟)	15
87	(—)	◎福岡大学附属大濠 (福岡)	15

※補欠合格を含みます。
※昨年度100位以下の高等学校については昨年度順位を(—)としています。
※着色された校名は、昨年度のランキングBEST100以内かつ合格者が5名以上増えたことを表しています。
※高等学校名は2005年度のものです。
※同一順位内では、高等学校等コード番号順に掲載しています。

出身高校別昼間部合格率ランキング BEST 50

順位	(昨年度順位)	高校名 (◎は私立高等学校)	合格者数	受験者数	合格率(%)
1	(15)	前橋 (県立)	21	27	77.8
2	(—)	富山中部	16	27	59.3
3	(—)	宇都宮女子	17	31	54.8
4	(8)	外語短期大学付属	31	57	54.4
5	(11)	◎頌栄女子学院	39	73	53.4
6	(—)	◎浦和明の星女子	18	34	52.9
7	(33)	◎豊島岡女子学園	21	41	51.2
8	(—)	日比谷	23	46	50.0
9	(—)	沼津東	23	47	48.9
10	(5)	西	15	31	48.4
11	(—)	薬園台	18	39	46.2
12	(—)	◎大妻多摩	18	41	43.9
13	(—)	◎東洋英和女学院高等部	16	37	43.2
14	(—)	青山	38	88	43.2
15	(41)	◎鎌倉女学院	35	83	42.2
16	(31)	小山台	26	62	41.9
17	(—)	浦和 (市立)	20	48	41.7
17	(—)	新潟	15	36	41.7
19	(—)	横浜緑ケ丘	39	95	41.1
20	(40)	厚木	31	76	40.8
21	(3)	◎フェリス女学院	15	37	40.5
22	(49)	小石川	21	52	40.4
23	(45)	栃木	27	67	40.3
24	(13)	湘南	43	107	40.2
25	(7)	国立	24	60	40.0
26	(—)	平塚江南	31	79	39.2
27	(23)	国分寺	23	59	39.0
28	(19)	八王子東	25	65	38.5
28	(4)	◎湘南白百合学園	15	39	38.5
30	(49)	◎横浜共立学園	20	54	37.0
31	(30)	◎穎明館	24	65	36.9
32	(—)	武蔵 (都立)	22	60	36.7
32	(—)	相模大野	22	60	36.7
34	(48)	横須賀 (県立)	37	101	36.6
35	(32)	大宮	16	44	36.4
36	(34)	◎國學院大學久我山	37	102	36.3
37	(—)	◎清泉女学院	15	42	35.7
38	(—)	立川	24	68	35.3
39	(—)	川和	34	99	34.3
40	(—)	相模原 (県立)	28	82	34.1
41	(—)	◎城北 (私立)	19	56	33.9
42	(—)	町田	37	111	33.3
43	(42)	◎サレジオ学院	15	46	32.6
44	(—)	◎神奈川大学附属	28	87	32.2
45	(—)	◎世田谷学園	24	75	32.0
46	(—)	生田	23	72	31.9
47	(—)	◎横浜雙葉	22	69	31.9
48	(25)	柏陽	34	107	31.8
49	(2)	◎吉祥女子	18	57	31.6
50	(38)	◎田園調布学園高等部	17	54	31.5

※補欠合格を含みます。　※合格率＝合格者／受験者
※昨年度50位以下の高等学校については昨年度順位を(—)と表しています。
※合格率は小数点第2位を四捨五入して表記しています。同率の場合は、小数点第2位で比較の上、順位付けを行っています。
※このランキングは、左表の100校を対象にしています。
※着色された校名は、昨年度のBEST50以内かつ合格率が10%以上増えたことを表しています。
※高等学校名は2005年度のものです。

2006年度 入学式

2006年4月4日(火)、青山学院記念館において大学入学式が挙行され、昼間部3,714名、第二部(夜間部)683名、合計4,397名の新入生が入学しました。また、同日、ガウチャー記念礼拝堂において、大学院入学式が挙行され、研究科569名が入学しました。

21世紀COEプログラム 第5回 国際シンポジウム
CIGS太陽電池の最新情報と将来動向について

CIGS太陽電池に関する国際シンポジウム

2006年3月1日（水）、青学キャンパス・青学会館にて、CIGS太陽電池に関する国際シンポジウムが開催されました。この国際シンポジウムは青山学院大学・21世紀COEプログラム「エネルギー効率化のための機能性材料の創製」の一環として行われたもので、第5回となる今回は、COEメンバーであり、わが国のCIGS太陽電池に関する研究の第一人者である理工学部電気電子工学科中田時夫教授のコーディネートで行われました。

英語による講演と質議応答を軸にしたこのシンポジウムでは、当日のプレゼンテーターとして、海外からは2007年にCIGS太陽電池による年間生産量15MWを目指すWuerth Solar社（ドイツ）のDr.Dimmler、CIGS太陽電池で世界最高の変換効率を達成した再生可能エネルギー研究所（NREL・アメリカ）のDr. Contrerasのほか、フランス、韓国からもそれぞれその国を代表する研究者が参加し、CIGS研究の最新動向を紹介しました。また、国内からは、愛媛大学、産業技術総合研究所のほか、昭和シェル石油、松下電器産業両社の研究開発担当者が、製造技術に関する報告を行いました。

中田教授自身も、青山学院大学におけるCIGS研究の歩みとその成果、研究設備、将来の研究開発目標などをプレゼンテーション。あわせて中田研究室の神田洋輔君と木島駿介君（いずれも博士前期課程）が、第一線で活躍する約60名の国内外の研究者たちを前に、英語で堂々たる研究内容のプレゼンテーションを行い、会場からあたたかい拍手が寄せられました。

「私たちの先端研究のもっとも大きな原動力となっているのは、彼らのような優秀な学生の存在です。学生たちがそれぞれの研究パートで、高いモチベーションを維持し、難しい技術課題に果敢に挑戦してくれるからこそ、数々の研究成果を達成することができたのだと思います」（中田教授）

なお、シンポジウム開催の前々日、相模原キャンパスL棟屋上に、大型のCIGS太陽電池パネル（モジュール）が設置されました。現在、この次世代太陽電池により、相模原キャンパスの電力の一部がまかなわれています。

平成17年度現代GP「e-Learning専門家の人材育成」事業成果報告
――第2回eLPCOオープンフォーラム――開催

2006年3月30日（木）、総合研究所「eラーニング人材育成研究センター（eLPCO）」は、平成17年度現代GP「e-Learning専門家の人材育成」事業成果報告会――第2回eLPCOオープンフォーラム――を開催しました。このオープンフォーラムは、文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム事業（現代GP）」および「サイバーキャンパス整備事業」の平成17年度成果報告、活動報告を一般の方々に向けて広く公開するとともに、企業や教育機関におけるeラーニング関係者の交流の場となることを目的として開催されているものです。

今回のオープンフォーラムでは、成果報告・活動報告に先立ち、2つの講演が行われました。まず、eLPCOセンター長・佐伯胖文学部教授が「eラーニングと学びの変革」と題して、「教育＝人間を育てることは本来どうあるべきか?」という根本的な問いに立ち返り、新しい時代の学びづくりを提唱。また、eラーニングをめぐる今後の重要なトピックである知財管理の問題について、青山学院知的資産連携機構の菊池純一法学部教授による「eラーニング知的財産管理の組織連携」では、本学におけるeラーニング知財管理の学内連携についてのプレゼンテーションを行いました。

開催当日は、学内外から約170名の方々が参加。特に学外の企業や本学以外の教育機関からの参加者が多く、国内では現在、本学だけが取り組んでいる「eラーニング専門家の人材育成」に対する社会的な注目度の高さを物語っていました。佐伯eLPCOセンター長によると、アメリカだけでなく、同じアジアの中国、韓国、シンガポールなどと比較しても、わが国ではeラーニング専門家の人材育成が大きく遅れており、「今後も年2回の予定で開催されるオープンフォーラムをきっかけとして、本学にわが国におけるeラーニング専門家育成の拠点を創りたい」（佐伯センター長）という構想を積極的にアピールしていく予定です。

なお、eLPCOセンターでは、4月から本格的に「eラーニング専門家育成プログラム」を開始しており、「今後は各学部の教員と連携を進め、従来の対面学習とeラーニングを組み合わせた学習モチベーション向上のために非常に有効な手段である“ブレンディッドラーニング”の授業づくりにeLPCOの専門家が協力していく」（佐伯センター長）体制づくりを目指しています。次回のオープンフォーラムは、秋の開催になりますが「一人でも多くの本学教員の方に参加していただき、“eラーニングの今”に対する認識を深めていただきたいと思っています」（佐伯センター長）

2006年度新役職員紹介

経済学部長／経済学研究科長
平澤 典男
堀場　勇夫教授は2006年3月末日をもって任期を満了、後任には平澤　典男教授が選任された。大学院経済学研究科長を兼務。任期は2006年4月1日より2年間。一橋大学大学院経済学研究科理論経済学及統計学専攻博士課程所定の単位取得。経済学修士。経済学部経済学科主任等を歴任。

文学部長・文学研究科長　伊藤 定良
伊藤 定良教授は2006年3月末日をもって任期を満了し、引き続き同氏が再任された。任期は2006年4月1日より2年間。

法学部長・法学研究科長　土橋 正
土橋 正教授は2006年3月末日をもって任期を満了し、引き続き同氏が再任された。任期は2006年4月1日より2年間。

国際政治経済学部長・国際政治経済学研究科長　土山 實男
土山 實男教授は2006年3月末日をもって任期を満了し、引き続き同氏が再任された。任期は2006年4月1日より2年間。

理工学部長・理工学研究科長　稲積 宏誠
稲積 宏誠教授は2006年3月末日をもって任期を満了し、引き続き同氏が再任された。任期は2006年4月1日より2年間。

法務研究科長　神長 勲
神長 勲教授は2006年3月末日をもって任期を満了し、引き続き同氏が再任された。任期は2006年4月1日より2年間。

図書館長　篠原 進
篠原 進教授は2006年3月末日をもって任期を満了し、引き続き同氏が再任された。任期は2006年4月1日より2年間。

学生部長　本郷 茂
本郷 茂教授は2006年3月末日をもって任期を満了し、引き続き同氏が再任された。任期は2006年4月1日より2年間。

国際交流センター所長　石崎 晴己
矢部 義之教授は2006年3月末日をもって任期を満了し、後任に文学部フランス文学科 石崎 晴己教授が選任された。任期は2006年4月1日より2年間。

外国語ラボラトリー所長　田辺 正美
田辺 正美教授は2006年3月末日をもって任期を満了し、引き続き同氏が再任された。任期は2006年4月1日より2年間。

法学部 菊池 純一教授が平成18年度知財功労賞　特許庁長官表彰を受けました

法学部　菊池　純一教授が、平成18年度知財功労賞（主催:経済産業省　特許庁）の産業財産権制度関係功労者として、特許庁長官表彰を受けました。

菊池教授の専門分野は「知的財産評価」「技術追跡評価」で、本学院の知的資産連携機構担当も務めています。

特許庁では、4月18日の「発明の日」に、産業財産権制度の普及促進及び発展に貢献のあった個人に対して「産業財産権制度関係功労者表彰」として、また、産業財産権制度を有効に活用し円滑な運営・発展に貢献のあった企業に対して「産業財産権制度活用優良企業等表彰」として、それぞれ経済産業大臣表彰及び特許庁長官表彰（『知財功労賞』と総称）を行っています。

化学・生命科学科　福岡　伸一教授の著書が平成18年度の講談社出版文化賞科学出版賞を受賞

理工学部化学・生命科学科　福岡　伸一教授の著書「プリオン説はほんとうか?」（講談社）が、平成18年度講談社出版文化賞の科学出版賞を受賞しました。

講談社出版文化賞は、さしえ賞・写真賞・ブックデザイン賞・絵本賞・科学出版賞からなり、漫画、ノンフィクション、エッセイ、さしえ、写真、ブックデザイン、絵本、科学出版の各分野の優れた作品に与えられます。

「プリオン説はほんとうか?」は、狂牛病対策など公衆衛生にも重大な影響を持ち、科学的真実として受け入れられているプリオン説が、今だ不完全な仮説であり、説明できない不可解な実験データも多いことから、さまざまな局面から解説したものです。

電気電子工学科 橋本 修教授が（社）電子情報通信学会の第9回エレクトロニクスソサイエティ賞を受賞

理工学部電気電子工学科 橋本 修教授が、社団法人電子情報通信学会より第9回エレクトロニクスソサイエティ賞（エレクトロニクス一般分野）を受賞しました。

受賞対象研究は、「高周波領域における材料定数測定法に関する研究」。

本賞は、エレクトロニクスソサイエティの最高の栄誉であり、エレクトロニクスに関する新しい発明、理論、実験、手法などの研究で、その成果の学問分野への貢献が明確であるものに授与されるもので、授賞式は　2006年9月下旬に金沢大学で開催される、同学会のソサイエティ大会にて行われます。

2006年度新任専任教員紹介

文学部

北村 哲
体育実技助手
コーチング学（テニス）

法学部法学科

大石 泰彦
教授
憲法
マス・メディア法

理工学部経営システム工学科

萩原 和典
助手
MOT（技術経営）
技術評価
教育工学

理工学部物理・数理学科

三部 泰彦
助手
化学物理

文学部

髙畠 瑠依
体育実技助手
運動学（陸上競技）

法学部法学科

伊藤 敬也
専任講師
国際私法

理工学部情報テクノロジー学科

山口 博明
助教授
ロボット工学

理工学部化学・生命科学科

大津 英揮
助手
錯体化学

文学部教育学科

樋田 大二郎
教授
教育社会学

法学部法学科

楊 林凱
助手
商法
（会社法、証券取引法、商事信託）

理工学部情報テクノロジー学科

河上 篤史
助手
ロボティクス

理工学部化学・生命科学科

小野寺 玄
助手
有機金属化学

文学部英米文学科

McCREADY,E.S.JR
専任講師
意味論

理工学部電気電子工学科

松谷 康之
助教授
電子回路工学

理工学部情報テクノロジー学科

松田 源立
助手
ニューラルネット

理工学部化学・生命科学科

武井 史郎
助手
分子細胞生物学
魚類生物学

文学部英米文学科

稲生 衣代
専任講師
通訳
翻訳

理工学部機械創造工学科

橋本 宣慶
助手
人工現実感工学
生産機械工学

理工学部情報テクノロジー学科

武藤 剛
助手
福祉工学、ヒューマンインタフェイス
人間―機械系、リハビリテーション科学

情報科学研究センター

和田 真由美
助手
情報処理学

文学部フランス文学科

LE　LARDIC,M.
助教授
フランス語教育

理工学部経営システム工学科

加藤 菊乃
助手
最適化

理工学部物理・数理学科

礒島 伸
助手
数理物理学

国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻

大湾 秀雄
教授
労働経済学
産業組織論

文学部史学科

小林 和幸
教授
日本近代史

理工学部経営システム工学科

道用 大介
助手
インダストリアル・エンジニアリング
生産管理

理工学部物理・数理学科

川口 俊宏
助手
宇宙物理学
天文学

2006年4月1日付就任者の所属、氏名、身分、専門分野を掲載しています。

前参議院法制局長　河野 久氏に青山学院大学特別招聘教授称号贈呈

本学法務研究科法務専攻（法科大学院）は、法曹倫理の重視、国際色、知的財産科目の充実などが特色として挙げられますが、なかでも他の法科大学院にほとんど見かけない「立法学」を基礎法・隣接科目群（選択必修）に位置づけ、初年度より開講していることはその最たるもので、志願者の極めて多くに「立法学の開講に魅力を感じた」という声が聞かれるほどです。

この度、青山学院大学特別招聘教授称号を受けられた河野 久氏は、参議院法制局在籍40年以上、法制局長職在任も6年に及び、立法過程のリアリティと法理論とを融合した講義のできる国内で稀有の人物で、開設当初より法務研究科の客員教授として「立法学」をご担当いただき、受講生にも大変な好評を得ています。これからも河野氏には、「立法に強い青山学院大学法科大学院」を目指した、より体系的なカリキュラム構築に、その豊富な経験と知識を活かしていただけることでしょう。

河野 久　氏
1938年生まれ
最終学歴／大阪市立大学法学部卒業
履歴／参議院法制局入局、課長（厚生、農林水産、財政金融等）、部長（財政金融、厚生、国家行政組織等）を経て参議院法制次長、参議院法制局長、青山学院大学法科大学院客員教授

経営学部第1回「フレッシュマン・キャンプ」

4月2日・3日、経営学部第1回「フレッシュマン・キャンプ」が熱海で行われました。この催しは、新入生に大学という新しい環境に一日も早く馴染んでもらう目的で始まり、そして一人ひとりにクラスの一員として、また、クラスの垣根を越えた学部という大きな単位の一員として、ひいては青山学院大学の学生としての自覚を促すことがねらいです。もちろん、新入生相互だけでなく、各クラスを担当する先輩（学生リーダー）や教職員との交流を図るという趣旨も盛り込まれています。

1年生だけといっても約600名の大所帯であり、要したバスの数は14台。集合時間の8時半をめざし新入生が次から次に正門から入ってきました。一人ひとりにクラス配置表を渡し、クラスごとに担当教員と学生リーダーが受付に当たりました。これだけでもゆうに一時間はかかりましたが、なんとか無事に全員がバスに乗り込み、青山キャンパスを出発することができました。

キャンプはバスの中から始まり、車内ではまず大学紹介のビデオを上映、その後、自己紹介、スケジュールの説明などが続きました。互いの紹介が済んだこともあり、熱海到着の頃には車中はなごやかな空気に変わっていました。

会場はホテルと市営のスポーツ施設を利用し、到着後すぐに開会式、その後、英語の能力別クラス分けテスト、履修ガイダンスが行われました。夕食は7時半から始まりましたが、タイトなスケジュールを終えてホッとしているせいか食欲も旺盛。また、立食形式のため、新入生たちは盛んに行き来し会話を弾ませていました。夕食後は、教員・学生リーダーを相手に大学生活全般について相談する学生も多く、10時を回っても続いていたグループが見られました。

翌朝は6時半から朝食。その後、ディスカッションとスポーツというメニューをこなしました。幸い、前夜の雨は上がり、またとないスポーツ日和。学生たちはそれぞれに、フットサル、バレーボール、テニス、ウォークラリーを楽しみました。また、クラスの和もできあがっていて、「良い企業の条件とは?」をテーマにした討論も大いに盛り上がり、閉会式ではディスカッションの講評と優秀クラスの表彰があり、そのときは歓声まで上がったほどでした。そして、キャンプは学部長の「大成功でした」という言葉で締めくくられました。

（写真撮影：経営学部助手　生駒 静）

新入生たちは終始、生き生きとした表情でキャンプにのぞみ、大学生活をスタートさせました。これから4年間の活躍が大いに期待されます。

（経営学部教授　佐藤 亨　記）

課外教育プログラムについて

課外教育プログラムは青山学院の教育方針を具現化し、正課では得ることのない知識や教養を体得し、そのことを通して社会の一員としてバランス感覚の整った学生を育成することを目的としています。

2006年度の課外教育プログラムの予定は以下のとおりです。奮ってご参加ください。詳細は、学生部（青山キャンパス）・学生生活グループ（相模原キャンパス）にお問い合わせください。

6月11日（日）
旬野菜の健康家庭料理
［夏企画］
新入生・留学生・在学生を対象とし、新入生が早く学生生活になじめるよう、新入生同士だけではなく、留学生および上級生との交流ができる機会を設定します。
場所：外部施設利用　募集人数：20名程度

6月14日（水）・28日（水）
青山キャンパス 上級救急救命法
相模原キャンパス 上級救急救命法
課外活動が本格化する前に、活動中の不慮の事故・事態に対する応急手当て・救命手当て等の他、けがや急病の際に役立つ実習を行います。
場所：青山・相模原両キャンパス　募集人数：各50名程度

9月13日（水）～15日（金）
手話講習会
［集中講座3日間］
講習会を通して、手話への理解と、聴覚障害学生への支援活動を行います。
場所：相模原キャンパス　募集人数：30名程度

11月26日（日）
旬野菜の健康家庭料理
［秋企画］
食文化を通しての異文化体験の場としてまた食事作りを通して参加者の交流の機会を設定いたします。
場所：外部施設利用　募集人数：20名程度

※その他、通年企画として使用済み切手・テレフォンカードの回収を実施し、日本キリスト教海外医療協力会（JOCS 切手）、アジアキリスト教教育基金（ACEF テレフォンカード）へ宗教センターを通して送付しています。

2005年度 学位授与式 大学院学位授与式

2006年3月25日（土）青山学院記念館において大学学位授与式が挙行され、昼間部3,583名、第二部588名、合計4,171名の卒業生に学士の学位が授与されました。

また、同日ガウチャー記念礼拝堂において大学院学位授与式が挙行され、大学院博士前期課程および修士課程修了生316名に修士の学位、専門職学位課程修了生113名に専門職の学位、さらに博士課程修了生14名、論文博士4名に博士の学位が授与されました。

2005年度 学生表彰

2006年3月24日（金）、青山キャンパス総合研究所ビル第16会議室において、「2005年度学生表彰授与式」が行われました。この表彰は、学生が在学中に学業および学友会活動以外の多様な分野において人の範となる活躍または業績をあげ、その行為が本人および青山学院大学の栄誉となるものについて、広く内外に顕彰することを目的としています。2005年度は以下の29名が受賞しました。

2005年度学生表彰　受賞者

●第57回学生広告論文電通賞「大学生グループ第1位」
文学部社会心理学研究会（全員 文学部 心理学科4年）
石井 絵美／九鬼 里栄／田口 恭平／石井 理紗子／黒澤 浩平／立野 健太／伊豫 耕介／石澤 慧／塚本 安沙子／内田 侑子／兒玉 恵／寺井 香理／大森 亜美／小山 将幸／萩原 健吾／小野 香織／設楽 ちひろ／増田 真奈／北澤 誠治／髙橋 裕子／丸山 香織
（主催）（株）電通

●人命救助及び初期消火による感謝状
角野 貴臣（経済学部 経済学科2年）
金田 直樹（経済学部 経済学科2年）
羽根 俊太郎（経済学部 経済学科2年）
（主催）相模原市消防長

●第15回ヤンマー学生懸賞論文「優秀賞」
港 徹雄ゼミナール
五十嵐 雄太（国際政治経済学部 国際経済学科4年）
齋藤 俊太（国際政治経済学部 国際経済学科4年）
平野 美帆（国際政治経済学部 国際政治学科4年）
（主催）ヤンマー農機（株）

●第15回ヤンマー学生懸賞論文「優秀賞」
港 徹雄ゼミナール
後藤 麻希子（国際政治経済学部 国際政治学科4年）
中嶋 圭（国際政治経済学部 国際経済学科4年）
（主催）ヤンマー農機（株）

※学年は2005年度現在のものです。

総合研究所 研究成果 発表状況

2006年3月末日までに研究活動を終了したプロジェクトから、以下のとおり研究成果が刊行されました。

2005年度研究成果

研究部	研究プロジェクト	研究成果
人文科学	都市社会の歴史的基本構造の分析	報告論集
社会科学	ビジネスプロセスマネジメントに関するプロセスパフォーマンスの視点からの研究	報告論集
自然科学	ベローズ管の振動および疲労強度の評価	報告論集
	先端光ファイバー応用技術開発と実用化	報告論集
経営研究センター	ビジネスコミュニケーション（現代企業におけるビジネスコミュニケーションの諸問題）	市販本　学文社 『ビジネスコミュニケーションの基礎理論』2,100円
eラーニング人材育成研究センター		市販本　東京電機大学出版局 『ブレンディッドラーニングの戦略 eラーニングを活用した人材教育』3,200円
		研究叢書　TF22,TF26

Club & Circle Information

問い合わせ先　〒150-8366
青山学院大学学生部学生課
Tel 03-3409-7835

*主な文化連合会・体育連合会の活動予定。
下記大会演奏会の日程・場所は予定のものです。今後変更になる可能性もあります。

主要活動予定（2006年6月～7月）

合気道部　青学・武蔵・明治大学　三校合同稽古（6月）
空手道部　関東学生春季リーグ戦（6月）
弓道部　全関東学生弓道選手権大会（6月）
剣道部　全日本学生剣道選手権大会（7月）
拳法部　第19回日本拳法全国選抜選手権大会（6月）
ゴルフ部　関東学生ゴルフ選手権（個人の部）（6月）
サッカー部　第30回総理大臣杯全日本サッカートーナメント関東予選（6月）
自動車部　全関東学生ダートトライヤル選手権（6月）
柔道部　全日本学生柔道優勝大会（6月）
水泳部　夏季関東学生公認記録会（6月）
ソフトテニス部　関東選手権大会（6月）
卓球部　関東学生卓球選手権大会（7月）
バスケットボール部　第46回関東大学バスケットボール新人戦（6月）
バドミントン部　関東学生バドミントン選手権大会（6月）
バレーボール部　東日本大学バレーボール選手権大会（7月）
陸上競技部（長距離ブロック）　第38回全日本大学駅伝対抗選手権大会（6月）
レスリング部　明治乳業杯全日本選抜選手権（6月）
English Speaking Society　大木杯スピーチコンテスト（6月）
オラトリオ・ソサエティ合唱団　KAY合唱団第113回定期演奏会（7月）
ギターアンサンブル部　関東学生ギター連盟演奏会（6月）
箏・尺八研究会　関東学生三曲連盟定期演奏会（6月）
競技ダンス部　東都日本学生競技ダンス選手権大会（6月）

2005年度 国家公務員採用Ⅰ種試験　司法試験 合格者数

2005年度国家公務員採用Ⅰ種試験、司法試験の合格者数は右のとおりです。難関試験を見事突破された皆様の、今後のご活躍をお祈りいたします。

●国家公務員採用Ⅰ種試験
合格者　6名（既卒含）
●司法試験第二次試験
合格者11名（既卒含）

2005年度 体育会優秀団体・選手表彰祝賀会

2006年3月9日（木）アイビーホール青学会館において「2005年度体育会優秀団体・選手表彰祝賀会」が開催されました。祝賀会には、深町院長、武藤学長をはじめ、学生部長、体育会長ならびに体育会各部長、表彰団体監督や表彰学生、各部の代表者が出席し、以下の団体・選手が表彰されました。

2005年度体育会表彰団体・選手 ※学年は2005年度現在。

【最優秀団体】
バレーボール部（女子） 第52回秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会優勝（17年ぶり）
春季関東大学女子一部バレーボールリーグ戦優勝
第24回東日本大学バレーボール選手権大会優勝
硬式野球部 第54回全日本大学選手権大会優勝
東都大学野球春・秋季リーグ戦優勝

【最優秀選手】
山本　美萌（法4） バレーボール部（女子） 春季リーグ戦優勝（最優秀選手賞）
秋季リーグ戦（敢闘賞・レシーブ賞）
第24回東日本大学選手権大会優勝（最優秀選手賞）
第52回秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会優勝(最優秀選手賞)
秋山　美幸（文3） バレーボール部（女子） 春季リーグ戦優勝（セッター賞）
秋季リーグ（セッター賞）
第24回東日本大学選手権大会優勝（セッター賞・レシーブ賞）
全日本学生選抜男女東西対抗戦（最優秀選手賞、セッター賞）
第52回秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会優勝（ｾｯﾀｰ賞） 他
内田　暁子（営2） バレーボール部（女子） 春季リーグ戦優勝（猛打賞）
第24回東日本大学選手権大会優勝（猛打賞）
秋期リーグ（猛打賞）
第52回秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会優勝（猛打賞）
高市　俊（国3） 硬式野球部
東都大学春・秋季リーグ戦優勝（最高殊勲選手・最優秀投手・ベストナイン）
第54回全日本大学野球選手権大会優勝（最高殊勲選手）
日米大学選手権出場
大嶋雄太朗（文3） 硬式野球部　東都大学春・秋季リーグ戦優勝（秋季ベストナイン）
全日本大学選手権優勝（首位打者）
日米大学選手権出場
佐藤　託矢（文4） バスケットボール部(男子)　第81回関東大学リーグ戦優勝（最優秀選手賞）
第57回全日本学生選手権大会準優勝（敢闘賞）
ユニバーシアード日本代表
日韓競技大会日本代表
長谷川恒平（文3） レスリング部　第56回文部科学大臣杯全日本学生選手権（G55kg優勝）
第17回全日本大学グレコローマンスタイル選手権（55kg3位）
第31回内閣総理大臣杯全日本大学選手権(F55kg優勝）
デーブ・シュルツ国際大会（G55kg銀メダル）
JOCオリンピック強化指定選手

【優秀団体】
空手道部 第48回全国空手道選手権大会（男子団体形準優勝、女子団体形優勝）
第48回関東大学選手権大会（女子団体形優勝）
ソフトテニス部（女子） 全日本大学対抗大会（3位）
バスケットボール部（男子） 第81回関東大学リーグ戦優勝
第57回全日本学生選手権大会（準優勝）
バドミントン部（女子） 東日本学生バドミントン選手権大会（優勝）

【優秀選手】
山川　広大（経3） 硬式野球部　東都大学春・秋季リーグ戦優勝（春季ベストナイン）
全日本大学選手権大会優勝
円谷　英俊（経3） 硬式野球部　東都大学春・秋季リーグ戦優勝（春季・秋季ベストナイン）
全日本大学選手権大会優勝
小窪　哲也（経2） 硬式野球部　東都大学春・秋季リーグ戦優勝（秋季ベストナイン）
全日本大学選手権優勝
日米大学選手権出場
横川　史学（営3） 硬式野球部　東都大学春・秋季リーグ戦優勝
全日本大学選手権優勝
日米大学野球出場
田仲　勝治（経3） 硬式野球部　東都大学春・秋季リーグ戦優勝
全日本大学選手権優勝
日米大学野球出場
嘉部恵梨奈（文2） スキー部　アメリカ　レディースコンチネンタル世界大会日本代表
第5回新潟県妙高サマージャンプ大会優勝
新田久里子（経1） ソフトテニス部（女子）
第94回東都大学秋季リーグ戦優勝（全勝賞・最優秀選手賞）
山﨑　知春（文2） 卓球部(女子)　第72回全日本学生卓球選手権大会準優勝
大屋　秀作（国4） バスケットボール部（男子）　第81回関東大学リーグ戦優勝（優秀選手賞）
第57回全日本学生選手権大会準優勝（優秀選手賞）
岡田　優介（国3） バスケットボール部（男子）　第81回関東大学リーグ戦優勝（優秀選手賞）
日韓競技大会日本代表
第9回男子学生選抜大会関東学生選抜
第7回関東実業団・関東学生オールスター選抜選手
正中　岳城（法3） バスケットボール部（男子）　第81回関東大学リーグ戦優勝（優秀選手賞）
第57回全日本学生選手権（アシスト王）
第9回日本男子学生選抜大会関東学生選抜
服部　麻衣（文4） バドミントン部（女子）
第56回全日本学生バドミントン選手権大会（女子ダブルス3位）
林　裕佳（文3） バドミントン部（女子） 〃
川上　佳奈（文2） バレーボール部(女子)　春季リーグ戦優勝、第24回東日本大学選手権大会優勝
第52回秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会優勝（リベロ賞）
城下　麗奈（経1） 陸上競技部　第21回日本ジュニア選手権大会（100mH優勝）
エイントホーフェン大会（100mH3位）
ブラスカート大会（100mH2位）
子本　真照（経4） レスリング部　全日本選抜選手権大会（G96kg3位）
全日本学生選手権大会（G96kg3位）
板倉　史也（経2） レスリング部　全日本学生選手権大会（G66kg3位）
全日本大学グレコローマンスタイル選手権大会（66kg3位）
池田　弘美（文4） レスリング部　全日本学生選手権大会（フリー48kg3位）
全日本選手権大会（フリー48kg3位）

【敢闘団体】
ｱｲｽｽｹｰﾄ部（ﾎｯｹｰ部門） 第54回関東大学選手権大会（Bグループ優勝）
第78回日本学生氷上選手権大会出場
硬式庭球部（男子） 関東大学対抗テニス選手権大会（決勝トーナメント進出）
関東大学テニスリーグ6部2位（5部昇格）
チアリーディング部 JAPAN　CUP2005チアリーディング選手権大会（規定演技1位）
バドミントン部（男子） 関東学生秋季リーグ戦（2部優勝　1部昇格）
フェンシング部 関東学生フェンシングリーグ戦
（男子エペ4部優勝、3部昇格、女子エペ3部優勝2部昇格）
レスリング部 東日本学生リーグ戦1部16チーム中6位（創部史上初）

【敢闘選手】
田辺　舞子（文2） 拳法部　日本拳法東日本女子個人選手権（敗者復活戦1位　優秀賞）
對馬　浩之（営4） サッカー部　JR東日本カップ2005第79回関東大学サッカーリーグ戦
最多出場64試合中62試合
木下　恵太（営4） 少林寺拳法部　第39回少林寺拳法全日本学生大会
（運用法男子三段以上の部　優勝）
薄井　良隆（経2） スキー部　第79回全日本学生スキー選手権大会
（ノルディックコンバインド・他）2部優勝
今井　理遼（営3） 準硬式野球部　東都大学準硬式野球春季リーグ戦　最優秀投手賞
特別賞（ノーヒットノーラン）
大槻　麻奈（文2） 卓球部（女子）　秋季関東学生リーグ戦（優秀選手賞・敢闘賞）
安保　静奈（経2） 馬術部　第42回東都学生馬術大会トーナメント（最優秀選手）
荒尾　岳（国1） バスケットボール部（男子）　第81回関東大学リーグ戦優勝
第7回関東実業団・関東学生オールスター選抜選手
青山　真（経2） バドミントン部（男子）　関東学生秋季リーグ戦　（2部最優秀選手賞）
神　ゆかり（文2） バドミントン部(女子)　関東学生バドミントン選手権大会（シングルス準優勝）
八木澤一恵（理4） フェンシング部　第38回東京都個人選手権大会（女子エペ6位）
台北オープン代表出場
ナショナルチーム最終選考会（女子エペ15位）
仲村　一孝（営4） 陸上競技部　第82回東京箱根駅伝予選会（予選会13位）
関東学連選抜出場選手
國井　康太（経4） 硬式野球部　第54回　全日本大学野球選手権大会　優勝
ベストマネージャー賞
松下　寛（営4） 合気道部　勝負を決する試合なし　人物優秀、技量抜群のため創部以来最速かつ異例の2段昇段を達成、また、体育会学生として範たる活動をおこない主将として合気道部発展に大いなる貢献をした

【奨励選手】
上田　大介（国1） 空手道部　第42回東京都空手道選手権大会（個人形）　優勝
田口　陽子（営1） 空手道部　春季関東学生定期リーグ戦（個人組手）　準優勝
加藤亜希子（文1） 硬式庭球部(女子)　全日本テニス選手権（シングルス予選）　出場
宮竹　由紀（経2） 水泳部　第81回日本選手権水泳競技大会（50mバタフライ）　4位
河原　由実（経1） ソフトテニス部(女子)　第47回全日本学生シングルス選手権大会　ベスト8
大坪　恭兵（法1） 陸上競技部　第84回関東学生陸上競技対抗選手権大会　男子1500m5位
村元　仁（法1） 陸上競技部 〃 6位

2005年度の体育会活動は、例年にもまして優れたものがありました。硬式野球部、バレーボール部（女子）、バスケットボール部（男子）、空手道部は、日本一、あるいは準優勝という輝かしい成果を挙げ、青山学院大学の名を高らしめました。これらの部は、部員数の減少に悩みながらも見事な成績を残した点で立派というほかありません。他の各部にも大きな刺激となっています。

学業との両立をはかりつつ活躍する体育会学生への熱いご支援を、お願いいたします。

（2005年度体育会長 江泉 芳信 法務研究科教授）

2006年度 地区父母懇談会のお知らせ

青山学院大学では、大学後援会事業の一環として保護者の皆様との連絡を密にし、ご子女に関する相談や本学に対するご意見等をうかがい、それらを大学運営に反映させる目的をもって、父母懇談会を開催しています。今年度の地区父母懇談会開催日程は下表のとおりです。対象となる保護者の方には、改めてご案内いたします。

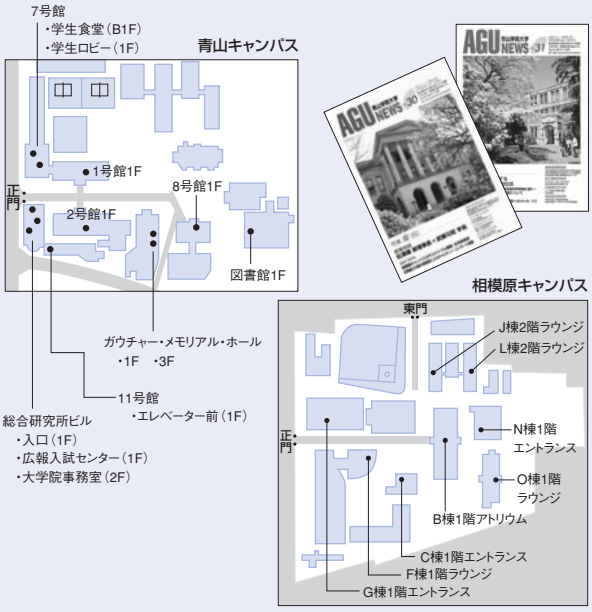
より多くの保護者の皆様の参加をお待ちしております。

対象府県	開催都市	開催日	会　場
北 海 道	函 館 市	8月 5 日(土)	函館国際ホテル
北 海 道	札 幌 市	8月 6 日(日)	ホテルオークラ札幌
岩 手 県	盛 岡 市	8月26日(土)	ホテルメトロポリタン盛岡NEW WING
福 島 県	郡 山 市	8月27日(日)	郡山ビューホテルアネックス
茨 城 県	水 戸 市	9月10日(日)	三の丸ホテル
新 潟 県	新 潟 市	9月24日(日)	ホテルオークラ新潟
長 野 県	長 野 市	9月 9 日(土)	ホテル国際21長野
石 川 県	金 沢 市	7月22日(土)	金沢都ホテル
愛 知 県	名古屋市	8月19日(土)	ヒルトン名古屋
静 岡 県	浜 松 市	8月20日(日)	オークラアクトシティホテル浜松
広 島 県	広 島 市	9月16日(土)	ホテルグランヴィア広島
大 阪 府	大 阪 市	9月17日(日)	ホテルグランヴィア大阪
島 根 県	松 江 市	9月 2 日(土)	松江東急イン
愛 媛 県	松 山 市	9月 2 日(土)	松山全日空ホテル
高 知 県	高 知 市	8月27日(日)	ホテル日航高知旭ロイヤル
福 岡 県	福 岡 市	7月30日(日)	ホテルオークラ福岡
長 崎 県	長 崎 市	7月29日(土)	ホテルニュー長崎
鹿児島県	鹿児島市	7月15日(土)	鹿児島東急ホテル
宮 崎 県	宮 崎 市	7月 8 日(土)	ホテルスカイタワー

開催時間●10:00～15:00(会場によって時間が異なる場合があります)
対象:首都圏(東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県在住2・3年生の保護者の方は別途開催)以外の全道府県在住、全学年の保護者の方。いずれの会場にご出席いただいても結構です。

お問い合わせ先：庶務部庶務課　父母懇談会 担当
TEL. 03-3409-8568

AGUニューズ専用スタンド設置箇所案内図



前期チャペル・ウィーク

5月22日(月)～27日(土)は前期チャペル・ウィークです。チャペル・ウィークは、春と秋の年2回、各界で活躍中のクリスチャンをお招きして大学礼拝でお話をしていただく特別伝道週間です。

この期間は普段の大学礼拝とは異なり、教会の牧師や宣教師だけでなく、一般企業の要職にある方、社会福祉の現場で活動されている方、教育に携わっている方、音楽家の方などが、それぞれの分野での豊富で貴重なご経験をもとに、ご自身のお働きとキリスト教との関わりについて語ってくださいます。聖書に示される神様の愛と慈しみを、より身近に具体的なものとして受け止めることができるでしょう。

青山学院宗教センター主催
青山学院CFJフィリピン訪問プログラム

3月22日(水)～31日(金)まで、宗教センター主催による青山学院CFJフィリピン訪問プログラムが実施されました。このプログラムはNPO法人チャイルド・ファンド・ジャパン(CFJ)を通じて教育支援をしているフィリピンの子どもたち、ならびにそのコミュニティを訪問するもので、今回は学生4名、学院の中等部生4名、初等部児童4名が参加しました。

フィリピンは都市部では高度に近代化が進められていますが、農村部や都市部の裏側では貧困問題が深刻で、実際には人口の約8割が貧困層とされています。食糧供給、労働条件、衛生状態、教育環境、医療支援の状況が社会構造的な悪循環を繰り返し、貧困から抜け出せずにいる人々が多くいるのです。本学ではいくつかの学生グループや個人が、CFJを通じてフィリピンの子どもたちの教育支援を続けてきていますが、これを単なる資金支援にとどめず、直接顔の見える支援、すなわち彼らの生の現実をより知った上での関わりを目指してこのプログラムが実施されました。

大学生は、中等部・初等部よりも一足早く出発し、ルソン島北部の山岳民族の村を訪ね歩き、一泊はホームステイをして現地の人々の生活を直接体験しました。農村部では、農作物には恵まれているけれど現金収入がほとんどなく経済活動が機能していない現実を見、一方、都市部ではわずかでも現金がなければ生活していけず、必死にゴミの中からリサイクルできる品を探しながら生きている子どもたちの実態を目の当たりにして、参加者それぞれが、貧困問題を越えて、人間の生の意味について問わざるを得ない経験をし、帰国しました。

参加学生の声

ホームステイ先では、電気、ガス、水道もない生活の中で、ホストファミリーのあたたかい愛情に触れ、自給自足の生活の中で、生命の大切さについて深く考えさせられる経験をしました。

そして、私はこの訪問を通して「支援」とは、単に資金援助だけの一方的なものではなく、「里子たち」と「私たち」が共に励まし合い、勇気づけられる関係づくりなのではないかと考えるようになりました。

(文学部教育学科4年　関口 真美)

仙波 憲一
学務・学生担当副学長
（青山スタンダード教育機構長）

誌上公開講座 No.32

進化する「青山スタンダード」

「青山スタンダード」は、2003年度に相模原キャンパス開学と共にスタートした、本学独自の全学共通教育。4年目を迎え、どのように進化しているのか……青山スタンダード教育機構長を務める仙波憲一副学長にお話をうかがいました。

学生の学ぼうとするポジティブな気持ち＝インセンティブを、さらに一歩推し進めること――全学共通科目である「青山スタンダード」には、そうした役割もあります。「青山スタンダード」は自己発見の機会であり、学生一人ひとりのキャリアを開発のきっかけにしてもらいたいと思っています。武藤学長は「面倒見のいい大学」とおっしゃっていますが、手取り足取り面倒見がいいのではなく、学生のやる気を出させて、一人ひとりのやる気にとことん対応します、というのが、私たちの考える「面倒見がいい大学」なのです。

「青山スタンダード」改革

今回、3年に一度見直しをするという規則に従い、いくつかの改革を行いました。

「青山スタンダード」導入のひとつの成果は、学生各自が自分の専門分野以外へ向ける関心度が向上してきたことです。実は今度3年次になった学生には、共通科目の部分とそれの発展部分のテーマ別科目というのがあるのですが、そこで自分の学部以外の科目を取っている学生が、なんと約8割強もいました。近年、全国的に大学カリキュラムにおいて副専攻という言葉が使われるようになっています。副専攻とは、専門分野以外の科目をまとめて履修したいという要望をフォローする制度です。本学でも、副専攻制度というものをカリキュラム上で全面的に押し出そうと考えています。

科目履修上での改革は、主として1年生で学ぶコア科目、2年生で学ぶテーマ別科目です。1年のコア科目の代わりに、2年のテーマ別科目を履修して探求を深められるようにしました。そのため余裕が生まれた1年では、コア科目の選択肢が増えるように授業時間帯の融通が利くよう配置し直しました。これで学生各自に応じたフレキシブルな履修ができるようになるはずです。

また、コア科目をすべて「総合科目」化をするという目標を掲げました。総合科目は、3人の先生がひとつのテーマについて講義するので、必ずしも専門性が必要ではなく、基礎知識のない学生と、ある程度関心を持っている学生とが混在しても対応できる授業形態です。すでに現在およそ8割が総合科目になっていますが、次の見直しまでにすべてを総合科目化することを約束したいと思います。

ITスキルについて

時代が変われば、必要となるスキルも変わっていきます。今の高校生は、既にある程度パソコンのリテラシーは身についていますので、本学では、ITスキルの基礎を修得するクラス以外に、例えば、ウェブサイト制作やJAVA、インターネットの構造等まで、レベルの高いクラスを各分野の先生に担当していただこうと考えています。

語学について

第二外国語に関しては「インテンシブコース」を新しく設けました。初級クラスは今まで通りですが、中級以上に週4回インテンシブコースを開講し、2年生が終わった段階で英語圏以外への留学が果たせるレベルの語学力を身につけさせるというものです。

また、英語に関しては、すべての学部でプレテストを導入しました。つまり、留学する前にTOEFLのITP（Institutional Testing Program ／TOEFL-ITP）という、過去問を受け、まず自分の英語能力、そして学習努力を自覚してもらいます。なお、英語のクラスは少人数で実践的英語スキルを習得するという新機軸により、従来以上に少人数になります。さらに、学生の科目選択の自由度を高め、English Student Assistant（ESA）制度やランゲージラボラトリーでパソコン上での英語テストを受講できるCASEC（キャセック）など、自学自習の機会を増やし、一人ひとりのやる気に応じてステップアップが可能になるシステムに変えていく試みを進めていきます。

科目開発について

科目開発の試みも活発に進めています。ますます充実する寄附講座のほか、青学OBでプロラグビー選手の岩淵健輔氏による「現代の若者とスポーツ」という講義を開講したりしました。ボランティア、本学の歴史、インターンシップと3つを組み合わせたUI（ユニバーシティ・アイデンティティ）科目を作る構想もあります。こうした新しい科目は学内の教員だけでカバーできない部分があり、広く社会のなかからも人材を求めていく予定です。

キリスト教教育について

青山学院大学の歴史は、キリスト教の歴史と切り離すことができません。建学の理念であるキリスト教精神に則った教育が本学の本当の根幹です。その根幹をまず学んでもらうために設置されているのが、キリスト教理解関連科目群です。これらの科目はキリスト教を信仰の対象ではなくて、学びの対象として位置づけられています。キリスト教そのものを学ぶことは、歴史、仏教、イスラム教・イスラム圏などを勉強するということも関わってきます。同時に、キリスト教芸術などの美術史的なもの、キリスト教音楽も入ってきます。例えば、BACH COLLEGIUM JAPANの鈴木雅明氏（音楽監督・東京芸術大学教授）には、「マタイの福音書などの中で、なぜJ・S・バッハがその曲を作ったか」というテーマの講義を実演を交えて行っていただきました。また、シュー土戸 ポール文学部専任講師の講義では、イスラム教のモスクの方をゲストスピーカーで招いた異文化のコミュニケーションとキリスト教、あるいはIT技術を媒体としたコミュニケートというキリスト教の実践がなされています。単に聖書を読むのではなく、このように学びの対象として多角的にキリスト教を考えていくことが、本学のキリスト教理解の大きな特色といえるでしょう。

青山スタンダードはこれからも進化していきます。すでに開催した懇談会や、今後、開催を予定している成績優秀者、IT-A、SAなどのモニター制度などを通して、受講する学生の意見を積極的に採り入れながら、毎年少しずつ修正しつつ、課題を集積し、カリキュラムや授業内容改編など比較的大きな改革は2～3年かけてじっくり取り組んでいく……そんなスタンスで、よりよい「青山スタンダード」を育て上げていきたいと思っています。

2006年度 進学相談会開催日程

青山学院大学では、本学受験を希望する受験生に情報を提供し、本学への理解を深めていただくため、全国各地で開催される進学相談会に参加しています。開催日程は以下の通りです。

6/16（金）	函館	ベルクラシック函館
6/17（土）	札幌	アスティ45
8/9（水）	札幌	アスティ45
5/30（火）	山形	ホテルメトロポリタン山形
6/21（水）	秋田	秋田キャッスルホテル
6/22（木）	盛岡	ホテルメトロポリタン盛岡
6/23（金）	青森	青森国際ホテル
6/24（土）	仙台	仙台市情報・産業プラザ（AER）
7/5（水）	郡山	郡山市民文化センター
7/6（木）	福島	ホテル福島グリーンパレス
6/6（火）	宇都宮	マロニエプラザ
6/7（水）	水戸	水戸プラザホテル
6/16（金）	高崎	高崎サンパレス
5/27（土）	池袋	サンシャインシティワールドインポートマート
6/2（金）	川越	川越プリンスホテル
6/6（火）	大宮	大宮ソニックシティ
6/15（木）	渋谷	渋谷エクセルホテル東急
6/17（土）	横浜	横浜新都市ビル（横浜そごう）
7/7（金）	千葉	ペリエ
7/8（土）	新宿	新宿NSビル
7/15（土）	九段	日本武道館
7/16（日）	横浜	パシフィコ横浜
5/30（火）	長野	ホテルメトロポリタン長野
5/31（水）	甲府	ベルクラシック甲府
7/13（木）	新潟	ホテル新潟
9/12（火）	金沢	金沢全日空ホテル
9/13（水）	富山	富山全日空ホテル
9/14（木）	福井	フェニックスプラザ
6/10（土）	名古屋	ナディアパーク
6/13（火）	静岡	ツインメッセ静岡
6/14（水）	浜松	アクトシティ浜松
7/30（日）	名古屋	名古屋国際会議場
6/17（土）	大阪	梅田センタービル
8/26（土）	大阪	大阪城ホール
6/3（土）	広島	基町クレド
6/6（火）	岡山	岡山コンベンションセンター
7/15（土）	広島	広島国際会議場
8/1（火）	広島	広島グリーンアリーナ
9/8（金）	高松	全日空ホテルクレメント高松
9/9（土）	松山	愛媛県県民文化会館
9/12（火）	徳島	ホテルクレメント徳島
9/13（水）	高知	高知市文化プラザかるぽーと
6/8（木）	鹿児島	いわさきホテル・ザビエル450
6/9（金）	熊本	熊本市産業文化会館
6/10（土）	福岡	西鉄ホール
7/1（土）	福岡	エルガーラホール
7/13（木）	那覇	おきでんふれあいホール
7/14（金）	那覇	おきでんふれあいホール
9/12（火）	長崎	ベストウエスタンプレミアホテル長崎
9/13（水）	佐賀	マリトピア
9/14（木）	大分	トキハ会館
9/25（月）	熊本	ホテル日航熊本
10/3（火）	鹿児島	鹿児島アリーナ
10/4（水）	宮崎	MRT　micc

※開催日、会場等は変更になる場合がありますので、広報入試センター広報課にお問い合わせください。
※進学相談会の全日程は本学ホームページでご覧いただけます。

2006年度 オープンキャンパス

■オープンキャンパス（受験生、高校1・2年生、保護者のご来場もお待ちしております）

相模原キャンパス（全学部対象）
●7月16日（日）　10:00～16:00

青山キャンパス（全学部対象）
●7月23日（日）　10:00～17:00＊
●9月17日（日）　11:00～16:00＊

開催内容:歓迎礼拝／大学紹介・入試概要紹介／全学共通教育システム「青山スタンダード」概要紹介／各学部学科紹介／個別進学相談／留学説明会／学生生活・就職・教職課程個別相談／大学紹介ビデオ上映／資料閲覧等を予定しています。
（＊青山学院女子短期大学同日開催）

★オープンキャンパスボランティア募集中!!
16,000名以上の来場があるオープンキャンパスにて、受付・案内などの作業をボランティアでお手伝いいただける学生（本学学生のみ）を募集しています。募集要項の配布、申し込み受付は、学生部学生課（青山キャンパス）およびスチューデントセンター・学生生活グループ（相模原キャンパス）にて、6月9日（金）まで行っています。ぜひご協力ください。

■社会人のためのオープンキャンパス
青山キャンパス●7月29日（土）14:00～17:30（受付:13:45～17:00）
内容:社会人・職業人対象の入学試験を実施する学部学科・研究科専攻の紹介、教員・在学生との懇談等を予定しています。

※オープンキャンパスの開催内容等については、本学ホームページでご確認ください。
お問い合わせ先　広報入試センター広報課　TEL. 03-3409-8626

News Index 2006.3～

06年3月

2006年3月に大学ウェブサイトで掲載されたニュースの主なタイトルを掲載しています。

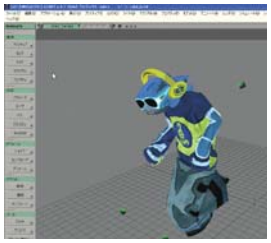
●小室達哉君（経営システム工学科4年）が（社）日本経営工学会優秀学生賞を受賞
●日本文学科の小澤智美さんと若林美幸さん、千葉紘子さんが第11回「前田純孝賞」学生短歌コンクールに入選
●与田祐樹君（国際政治経済学部4年）の論文が2005年度第21回テレコム社会科学学生賞の佳作に入選
●青山学院大学ローターアクト・クラブの結成認証状伝達式が行われました
●シカゴホワイトソックスの井口選手が本学を表敬訪問
●理工学部電気電子工学科 濱根洋人 助手と東邦電子（株）が多チャンネル温度同調制御技術を開発
●経済学部の4教員が（財）統計情報研究開発センターの平成17年度シンフォニカ統計GIS活動奨励賞を受賞

大学紹介パンフレットのデジタルパンフレットをHP掲載

大学紹介パンフレットおよびビデオが下記アドレスにてご覧いただけます。（内容の一部抜粋）なお、2007年度版については6月以降にアップロード予定です。
http://www.aoyama.ac.jp/admission/college/reference/index.html

アドバイザー・グループ紹介 6

CGを総合的に学んでみよう〈佐久田アド・グル〉



私のアドグルでは最近、コンピュータ・グラフィックス（CG）を総合的に学ぶことをテーマに活動しています。昨年度は、SoftimageというCGアニメーション作成用ソフトの使い方の勉強をしてもらいました。私の専門は設計情報工学とe-Learning。2次元／3次元CADやCGプログラミングなどを得意としていますので、初歩から段階的に学んでもらっています。週一回程度、学生に私の研究室に来てもらい、卒業研究生・大学院生と交流し、理工学部の高度な3次元CADの設備を使って学習しています。3次元CADを使うと、幾何学とプログラミングを知らない学生でも、コンピュータによる造形の面白さを簡単に体験できます。CADソフトなどのIT技術は道具に過ぎません。しかし道具というのは重要で、使い方を学ぶことを通して、さらに深い事柄、たとえば製品の洗練された形や性能を学ぶことができます。美術や造形が大好きな学生に、現代的なツールによって「こんなことまでできる!」という驚きを体験してもらいたいと思っています。

理工学部 佐久田 博司 教授

AGUニューズについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニューズ」を年5回（1月、3月、5月、7月、10月）発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニューズ専用スタンドにて配布しています。

●なお、「AGUニューズ」を確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。
事務取扱窓口　青山キャンパス→学生部厚生課
相模原キャンパス→スチューデントセンター・学生生活グループ

広報入試センター広報課●2006年5月20日発行●